

## つしま地鶏肉用コマースシャルの造成について (第2報)

真鳥 清・\*本村高一 (長崎県畜産試験場・\*長崎県島原振興局)

Kiyoshi MATSURI and Takaichi MOTOMURA : Meat Production of Tushima Fowl and its Cross Breed

近年、消費者の品質に対する関心の高まりから、日本在来鶏等を利用した特産鶏肉の需要が伸びてきている。このような情勢に対応するため、長崎県在来の「つしま地鶏」を母体とした「つしま地鶏肉用コマースシャル」を造成し、地域特産鶏として実用化するための適正な交配様式を見いだすことを目的として、これまで、つしま地鶏と他の卵肉兼用種及び肉用種鶏との交雑種の産肉能力等を検討した結果、前報<sup>1)</sup>で報告したように、増体についてはホワイトプリマスロックとの2元交雑鶏(以下「2元」という。)が、98日齢で雌雄の平均体重2.5kgを越える良い発育を示し、特産鶏として活用出来る見込みとなったが、さらに、地域特産鶏として定着普及を図るには、プロイラーとの差別化により有利な商品を開発する必要がある。そこで、肉色が非常に濃いとされる「シャモ」を活用し、「つしま地鶏」を母体とした3元または4元交雑鶏を作り、その増体能力等を検討した。

## 1. 試験方法

供試鶏の交配様式は、「(シャモ×肉系つしま)×(ホワイトプリマスロック×つしま地鶏)」(以下「4元」という。), 「(シャモ)×(ホワイトプリマスロック×つしま地鶏)」(以下「3元」という。)とし、1991年4月25日餌付けで98日齢まで飼養した。

供試鶏は開放平飼鶏舎の雌雄別飼、飼育密度は坪当たり15~20羽、給与飼料は0~28日齢にプロイラー用前期飼料(CP22-ME3080kcal)、28~98日齢にプロイラー用後期飼料(CP18-ME3150kcal)とした。なお、飼料消費量は7日間毎に、体重は28日齢、56日齢、84日齢及び98日齢時に、枝肉歩留は98日齢時に各区から♂3羽♀3羽を無作為に抽出しそれぞれ測定した。

## 2. 結果及び考察

1) 増体成績 第1表に「つしま地鶏」を母体とした3元及び4元の増体成績を示した。4元の体重は3元に比し56日齢頃から重くなり、98日齢での雌雄平均で4元鶏が170g重くなりその差は有意であったが、前報の2

第1表 増体成績

区分	56日齢 (kg)			84日齢 (kg)			98日齢 (kg)		
	♂	♀	平均	♂	♀	平均	♂	♀	平均
4元	1.36	1.06	1.21	2.50	1.84	2.17	2.86	2.05	2.46
3元	1.21	1.01	1.11	2.26	1.74	2.00	2.65	1.93	2.29
2元	1.45	1.23	1.34	2.49	1.88	2.19	2.99	2.05	2.52

元より60g軽かった。なお、98日齢時の雄と雌の体重差は、4元で810g、3元で720gとなり、2元の940gより小さくなる傾向を示した。

## 2) 飼料消費量

餌付けから98日齢までの1羽当たり飼料消費量は、4元7.41kg、3元6.89kgとなり体重が重いものが多い傾向にあった。なお、3元は後半の84日齢頃から消費量の伸びが鈍化し、4元との差が大きくなった。

## 3) 飼料要求率

飼料要求率は、84日齢までは飼料消費量が多いものの体重が重かった4元が3元より良い傾向を示したが、84日齢以降は3元の飼料消費量の伸びの鈍化により飼料要求率が良くなったため、98日齢までの飼料要求率は、3元及び4元とも3.01と等しくなった。なお、3元及び4元の飼料要求率は、増体成績が良かった2元に比し悪くなった。

## 4) 解体成績

第2表に98日齢時における交雑鶏の解体成績を示した。ささみ、胸肉及び腿肉の総量を正肉量とし、正肉歩留は生体重に対する割合で表した。3元のささみ、胸肉及び腿肉重量は、体重は軽いものの雌雄いずれも4元より重く、また、正肉歩留も3元が高くその差は有意となった。なお、腿肉の肉色を色差計でA値を測定したが、プロイラーの1に対し、3元と4元は3.1~3.3を示し明らかに高い傾向を示した。

第2表 解体成績(生体重に対する割合)(%)

区分	ささみ		むね肉		もも肉		正肉計	
	♂	♀	♂	♀	♂	♀	♂	♀
4元	3.1	3.5	10.4	11.2	19.1	16.9	32.6	31.7
3元	3.6	3.7	12.2	12.3	21.2	20.9	37.0	36.9

以上により、つしま地鶏を母体としてシャモを組合せた「つしま地鶏肉用コマースシャル」としては、体重においては4元が優れ、飼料要求率や肉色はほとんど差がないが、特産鶏として最も需要の多い腿肉量が多いこと、また、種鶏供給も容易である3元が当面は適当と思われる。なお、今後は給温期間等の季節別の飼養管理法を検討する必要がある。

## 引用文献

- 1) 本村高一・真鳥 清・山口俊彦：九農研 52, 123, 1990.